

マメツタラン *Bulbophyllum drymoglossum* Maxim. ex Okubo

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 10。自然度の高い森林に依存する着生植物であるが、その中には生育地も個体数も比較的多く、さしあたり絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は細く、横にはい、偽球茎をつくらず、まばらに葉をつける。葉は無柄、葉身は卵円形、長さ 7~10mm、幅 5~8mm、先端は円頭、葉質は肉質で脈は見えない。花期は 5~6 月、葉の基部から長さ 7~10mm の糸状の花茎を出し、その先端に淡黄色 (まれに暗紅色) の花を 1 個つける。苞は卵形で鈍頭、膜質、がく片は 3 枚で広披針形、長さ 7~8mm、側花弁は長楕円形、長さ 3~4mm、唇弁は広披針形、がく片より短く、やや鈍頭、外側に湾曲する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 46953, 1993-8-22)、2 豊根 (小林 41304, 1993-4-11)、3 東栄 (小林 64499, 1999-7-5)、6 設楽西部 (小林 41683, 1993-4-24)、7 設楽東部 (夏目一平 29, 2009-12-12)、8 鳳来北東部 (芹沢 85160, 2009-10-10)、9 鳳来南部 (福岡義洋 4732, 1999-11-18)、15 豊橋北部 (小林 70062, 2000-7-16)、17 田原東部 (小林 47767, 1993-9-12)、18 田原西部 (小林 47761, 1993-9-12)。尾：37a 瀬戸 (日比野修 400, 1992-6-13)。11 作手にもあるという (小林 2000)。西三河では、25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 295, 1958-8-18) で採集された標本はあるが、最近確認されていない。45 犬山 (成瀬賢璽 720, 1958-5-18) で採集された標本もある。

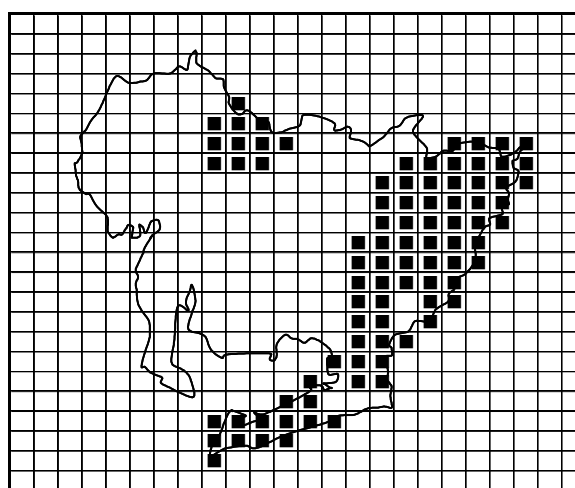
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島南部、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の樹幹や岩上に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

ムギランよりは少ないが、それでもあちこちで見ることができる。愛知県では岩場に生育することが多いが、ツガなどに着生することも少なくない。樹幹に着生する場合は、確認できるものは実際に存在する量のごく一部にすぎないと思われる。森林性の植物であるため、自然林が広範囲に伐採された時代には相当減少したものと思われる。ラン科植物としては花が目立たないので、園芸目的の採取は、現在のところそれほど脅威になっていない。

【保全上の留意点】

本種が絶滅危惧種であるかどうかにかかわらず、本種が生育しているような自然度がある程度高い森林は、今後も注意して保全していく必要がある。

【特記事項】

和名は、全形がシダ植物のマメツタに似ているからである。マメランとも呼ばれる。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.184. 愛知県, 名古屋

【関連文献】

保草本Ⅲ p.59, 平草本 I p.231, 平新版 1 p.184.